

# 子どもの権利ポスター展

札幌市では、子どもが毎日を幸せに過ごすことができるまちを目指して、子どもの権利条例の中で毎年11月20日を「さっぽろ子どもの権利の日」とし、子どもが参加する事業の実施などを通して、子どもの権利の普及啓発に取り組んでいます。

今年度は、子どもの権利をテーマとするポスターを募集し、たくさん子どもたちから「子どもの可のうせいはいっぱいあるよ♡」、「のびのび生きる権利がある」、「子どもの未来を考えよう」などメッセージ入りの作品をいただきました。その中から選考委員会や子ども議員の投票を経て、最優秀賞1作品、優秀賞5作品、奨励賞14作品が優秀作品として選ばれました。



**「皆違って皆良い」**  
田村 心花 さん  
札幌市立屯田北中学校3年

## 表彰式の様子



- ▲右から、  
屯田北中学校3年 田村 心花さん (最優秀賞)  
南月寒小学校5年 岩田 実夕さん (優秀賞)  
明園小学校6年 村上 遥さん (優秀賞)  
明園小学校6年 佐藤 美祐さん (優秀賞)  
札幌静修高等学校3年 越前 涼音さん(優秀賞)
- ※屯田北中学校1年 南澤 由依さん (優秀賞) は都合により欠席

優秀作品は、子どもの権利の日を含む11月14日～20日までの1週間、アリオ札幌2階スペースで展示するとともに、同会場で優秀賞以上の受賞者を対象とした表彰式も開催しました。

ポスター展では、子どもの権利の絵本「おばけのマルとすてきなまち」や子どもの権利の考え方を4コマまんがで紹介した「Kenri Book」のパネル展示も行い、連日、多くの方々に来場していただきました。

子どもたち一人一人が安心して暮らし、健やかに成長していくために、これからもみんなで子どもの権利について考え、子どもの権利を大切にしていって取組を進めていきます。

優秀賞以上のポスター作品は、  
2019年カレンダーに掲載して  
学校などに配布します。  
ぜひご覧ください!



# 子どもがきらりと輝くまちに 子どもの権利 ニュース

The Rights of the Child

第19号  
平成30年12月発行

## 児童会館の夢の行事を企画しよう!

### ～児童会館子ども運営委員会交流会 開催～

9月22日(土)、中央区内の8館の児童会館が集まり、「中央IIブロック 児童会館子ども運営委員会交流会」が山鼻児童会館で開催されました。各児童会館で子ども運営委員会のメンバーとして活躍している子どもたちが、交流を深めながら、「児童会館の夢の行事の企画」などをテーマに、話し合いを行いました。



### 子ども運営委員会って何をしているの?

子どもたちが、児童会館の運営に参加し、自分たちの意見を反映できるようにするために、各児童会館・ミニ児童会館に設置されています。児童会館の利用のルールや行事の企画・運営など、日頃から様々な取組を行っています。

を考えよう」をテーマに話し合いを行いました。



### 各館のメンバーが大集合!

この日は、中央区内の8館の児童会館(山鼻、中島、幌西、緑丘、山鼻かわ、伏見小ミニ、資生館小ミニ、幌南小ミニ)から、小学2年生から6年生までの約60名の子どもたちが集まりました。まずは名刺交換からスタート。それぞれの名刺を手に、初めて会う他の児童会館のメンバーと自己紹介をしました。その後、各館混合の8グループに分かれて、グループ対抗のゲームで交流を深めました。

### みんなの夢の行事を発表!

「誰に楽しんでもらうのか」、「いつ開催するのか」など、児童会館でやりたい夢の行事を具体的に考え、グループごとにアイデアをポスターにまとめて発表しました。

12月に子どもたちだけで2メートルのクリスマスケーキを作るという「巨大ケーキ作り」や、夏に家族も一緒に楽しむ「リアルおばけやしき」など、すてきなアイデアがたくさん出ました。

### 交流会の愛称が決定!

各グループで考えた愛称を掲示し、一人一票、子どもたち全員が投票しました。その結果、「中央IIブロック 児童会館子ども運営委員会交流会」の愛称は、「TNU(たのしく なかよく うんえいいん)」に決定しました!



### 子どもたちの感想

参加した子どもたちからは、「みんなで夢の行事を考えて楽しかったです。やりたい行事のアイデアがたくさん出ました。」という感想や、「他の児童会館の子の名前を覚えて、一緒に学んだり遊んだりできて楽しかったです。」という感想がありました。



札幌市役所では、「札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例」(通称:子どもの権利条例)に基づき、様々な場面で子どもが意見を言う機会をつくり、まちづくりに子どもの視点を活かすよう「子どもの参加」の取組を進めています。

今年は8月に、札幌市、奈井江町、長野県松本市の子どもたちが集まり、定山溪を舞台に町並みや自然を見学・体験した上で、定山溪の魅力づくりやPRについてグループで話し合い、考えたアイデアを定山溪観光協会の方も交えて、みんなの前で発表しました。

さらに、札幌市の子どもたちには「子どもレポーター」として、当日の体験をもとに子ども向け広報紙「子ども通信」(第19号 平成30年12月発行)の原稿を作成してもらいました。

子どもたちの情報発信をぜひご覧ください!

▽札幌市から参加した子どもたちが原稿を作成した記事です。

### 3まち交流会開催!!

今回の交流会では、札幌市、奈井江町、松本市の小中高生が集まりました。

午前の活動では、定山溪散策でホテルの中を見学し、普段見ることができない調理場や温泉の設備などを見ました。

心の里定山では、定山溪の自然の話をしてもらい、足湯で歩いた疲れを取りました。昼前には、カヌー体験もしました。



昼食はバイキングで、みんなでワイワイ食えることができました。

午後は、意見を出し合いグループワークを行いました。みんなの前で発表するのは、とても緊張しました。発表の中で、かっぼんゲームというアイデアもあり、おもしろかったです。本物のかっぼんも登場し驚きました。

この交流会で、普段体験することができないことを体験できたので、とても良い経験になりました。



### 楽しかったことベスト3!!

一位はやはり昼食で食べたバイキングです。友だちとの仲を深めながら、新鮮なトマトやきゅうり、プリンなどを食べました。

二位は豊平川につながっている川でカヌーをしたことです。カヌー体験では、他のカヌーとぶつかったりしましたが、初心者の方たちでも楽しむことができました。



三位は心の里定山で、定山溪には自然がいっぱいあるという話や、動物がたくさんいるという話を聞けました。

定山溪には温泉だけではなく自然がいっぱいあって、体験できる場所もたくさんあることに気づきました。



### 子どもレポーター編集会議の様子

編集会議では、グループに分かれて、それぞれが事前に作ってきたメモをもとに、感想や表現の工夫を楽しそうに話し合いながら、記事の原稿を仕上げてくださいました。

事業に参加してくれた「子どもレポーター」のみなさん、本当にお疲れさまでした!



### 定山溪PR隊~成果報告の巻~

私たちは今回の交流会で、定山溪をPRする方法について話し合いました。その中で出たアイデアを、いくつか紹介します。

一つ目は、SNS映えスポット作りです。実際にカメラやスマホを持ち歩く若い観光客が多く、国内だけでなく、国外へのPRとしても有効だと思います。

二つ目は、おみやげ作り体験です。来てくれた幅広い年代のお客さんに、定山溪のことを知ってもらうチャンスをつくることができます。

他にも、かっぼん花火大会を開催するなどの楽しいアイデアが出ました。

### 子どもレポーター編集後記

今回編集にあたって、2つのグループに分かれてお互い協力し合い、時間はかかりましたが、上手くまとめることができました。

### ~子どもたちの感想~

楽しかったこと

思い出に残ったこと

会ったこともない人といっしょにかつ動きてよかったです。カヌー体験も楽しかったです。

《小学4年》  
宮崎 青 レポーター

初めてカヌーに乗って、みんなでオールを使ってこいだのが、一番楽しかったです。またやりたいです。

《小学4年》  
掛橋 美桜 レポーター

ホテルの人がすごくしんせつだった。みんなやさしくて、いっぱいおきゃくさんがきそうだなと思いました。

《小学4年》  
田川 楓恋 レポーター

いっぱい友だちができて、カヌー体験や足湯にも入って、すごく楽しかったです。また行きたいです。

《小学4年》  
解良 小町 レポーター

定山溪は温泉というイメージだったのですが、昔ながらのお店や自然があり素敵な場所でした。

《中学2年》  
小川 かのん レポーター

定山溪で年代をこえて町をこえている体験をして、食べて笑ってすごく楽しかったです!!

《中学2年》  
寺崎 凜 レポーター

今回の体験で、自然について知ることができたことが一番心に残りました。とても良い経験になりました。

《中学2年》  
松田 悠希 レポーター

新しい発見もあり、再度定山溪の魅力を知ることができた。3まちの子どもたちとの交流もおもしろかった。

《高校2年》  
渡邊 蓮太 レポーター

午前は定山溪探検で目を輝かせていた子どもたちが、午後の話し合いでは頑張っていて感動しました!

《高校2年》  
新井田 瑠璃 レポーター

色々な学年、地域の人と交流できてよかったです。また機会があれば参加したいと思います。

《高校2年》  
妹尾 楓音 レポーター

定山溪は温泉しかないと思っていましたが、体験できる場所などがあり、楽しむことができました。

《高校2年》  
鈴木 悠那 レポーター

かっぼん  
定山溪温泉  
PR 隊長

